谷戸の風 ㊵

美しい心

山内静夫

過日、蓼沼誠一さんが亡くなられた。蓼沼さんはご承知の通り画家である。今目の前に蓼沼さんが画かれた絵はがきがある。春、衣張山は桜満開の鎌倉の海の遠望、はるかに江の島が見える眺めだ。お好きな場所だったのであろう衣張山からの木版画　藤本宿

である。いかにも暖かな、観光客などいない、のどかな鎌倉が絵の中から浮んでくる。蓼沼さんは、まさにそんな方だった。

私が鎌倉文学館の館長だった時、お願いして理事になって頂いてからのお付き合いだからもう二十年近くなる。誠実で折目正しく、理事会には休まず出ていらっしゃり、控目ながら、きちんと持論を述べておられた。

蓼沼さんは又、一流の料理人で、男の料理教室を開いて、鎌倉の暇な〝?〟旦那衆に料理の手ほどきをするというような粋な面もある人だった。

思うに、蓼沼さんという人は、常に他人のために、ということを考えて生きておられた方だったのではないだろうか。

よく写生旅行に行かれるが、その帰り私の家に一寸寄って、新鮮な野菜を下さったり、私の家内が生花を好きと知って高原の小さな草花を手折って持ってきて下さるそんな心づかい、余程のあたたかい、やさしい心をお持ちの方でなければ出来ることではない。勿論そんなことよりもっと大きな仕事を、鎌倉という地に残されたことは言うまでもないが、私には、あこの可憐な草花ごしに見える蓼沼さんのやさしい笑顔が、忘れられない―。

柞の森合唱団が奉納演奏

園児から高齢者　八幡宮で熱唱

♪里山茂れ青々と―住民たちの歌声が蝉しぐれの中で神社の境内に響く。西鎌倉地域の幼稚園・小中学校と地域住民が手作りで仕上げている「柞（ははそ）の森音楽祭」が来年10回目になるのを記念して、9月4日鶴岡八幡宮の舞殿で奉納演奏会が行われた＝写真。

園児から高齢者まで五、六十人がそろいのTシャツなどで参加し、実行委員長・堀部隆二さん（72）の指揮で「かたつむり」「どんぐりころころ」などの童謡ほか、地域にある広町の森をテーマとした曲も披露された。堀部さんは「子どもたちを地域のみんなで見守り元気に育てていきたい」と挨拶した。

第10回音楽祭は来年3月26日市立西鎌倉小学校体育館で。同事務局☎0467・32・6096

バザーや模擬店 大にぎわい

鎌倉福祉まつり

第36回鎌倉福祉まつりが9月4日、鎌倉市福祉センターで行われ、約2400人の入場者があった。1981年の国際障害者年から始められ、今年36回目。

開始時間前から入り口に列ができ、市民から寄付された雑貨、衣料、食料品のバザーが大にぎわい。被災地支援の宮城県山元町の手作りケーキやジャム、熊本の海産物などの販売コーナーでは、ガールスカウト神奈川県第3団の小学1年生から3年生まで11人が販売を手伝った＝写真。島谷來春（くるは）さん（小3）は、「昨年よりよく売れている」と話していた。

文学つれづれ ⑭⑷

『舞姫』と『ファウスト』（14）

赤羽根龍夫

「生きるべきか死ぬべきか」と悩むハムレットは最後には敢然として復讐のために立ちあがり、人間の心に豊かな内面性を発見したウェルテルはやがて近代人の典型とされる行為の人ファウストとして蘇ったのである。しかし太田豊太郎は最後まで「弱い心」の持ち主として不決断に留まった。

近代日本の建設ということがヨーロッパのように自由な個人に基礎を置く市民社会形成ではなく、国家の建設―漱石の言う外発的な開化であったということが、豊太郎・鴎外の不幸であった。

エリーゼがドイツに帰っていったのは、鴎外との結婚、あるいは少なくとも彼との愛を続けられないということを状況的に理解したからだけではない。鴎外が、ドイツにいた頃のファウスト的青年ではなく、日本という不思議な社会の中で次第に顔の見えない人間に変身していくのを目の当たりにしたからなのである。ある意味でエリーゼは鴎外との愛に破れ棄てられてドイツに帰ったのではなく、鴎外との愛をこれ以上汚さないために鴎外との愛がまだ生きているドイツに帰っていったのである。「少しの憂いもなく」微笑さえ浮かべて帰っていくエリーゼの顔を見ながら鴎外はドイツで築きあげた近代人としてのアイデンティティーの回復を求めて『舞姫』を書きだしたのである。

軍服姿の鴎外〈37歳〉＝「新潮日本文学アルバム」より

終わり

次回からは「桃太郎と一寸法師」です。

（神奈川歯科大名誉教授）

※4、5面に柳生新陰流・尾張槍術師範としての赤羽根氏の特集記事。

鎌倉朝日歌壇

香山　静子　選

水が水押して砕ける滝音に交じりて聞こゆる蝋の声　腰越　近藤　源司

上旬の発想に独自性があり、音の重層性も印象的。

物干しに揺るる着物はひと夏の汗を落として鯖雲のなか　笛田　入野　裕江

日常からの発想の中に秋の爽やかさが感じられる。

特攻に散りし十代ありてこそ今若きらの輝く五輪　片瀬　中村　喬

確かにその通りで、身の引き締まる思いである。

あれ程の嵐何処で凌ぎしか秋茜ひとつスイと横切る　大船　小笹岐美子

軒おおうグリーンカーテン通しみる行合の空高くなりたり　逗子市　湊　美根子

ねぶた越し山裾の粧いひろがりてつがるの町に秋しのびよる　岡本　鳴海　紀政

ポンポンと弾む木魚や鉦の音に僧侶の読経冴え渡りたる　城廻　塩田　文子

立秋を過ぎて静もる昼下がりゆるり飛び交ふしおからとんぼ　葉山町　近藤美知子

盃に菊を浮かべて重陽の古希祝わんと御酒交わす朝　葉山町　近藤　純

古楽器の音色のピンと張りつめて曲新しき秋の一日　材木座　有野裕美子

無人駅にコスモス揺るる暮れ方のやさしき風に友を見送る　鵠沼桜が岡　一色千穂子

鎌倉朝日俳壇

志摩　知子　選

船宿のあるじは猫か葉月潮　藤沢市　春山　多喜

ユーモラスな句。ゆったりとした猫と八月の海。

懐かしき友の笑顔や桃届く　大町　堂谷　妙子

友人が桃を送って下さった。友人の優しさと甘やかさ。

鎌倉を愛して生きて盆の月　材木座　貝山　正子

私も同じ思いなので大変共鳴しました。

舫ひたる舟の軌みや今朝の秋　腰越　近藤　源司

初秋の海の感じをとらえている。

秋涼し休む畑の先は海　腰越　松原　薫

休む畑の先は海が。空間があって秋の爽やかさがいい。

通ひ路の帰りのとほき夜の秋　常盤　片岡　和子

行きはよいよい帰りはこわいの心境が。

蟬声や点在コテージ灯のともり　本鵠沼　宗　とし尾

夏帽子病院通ひの老夫婦　今泉　小林　挙子

緩みたる心ねじ巻く震災忌　片瀬海岸　伊東　清

灯台に触るる落暉や夏逝けり　植木　風見　玲子

ふるさとへ身をひるがへし鮭遡上　大船　添田　洋子

白秋のもてなしの風頬なでて　川名　槇野あさ子

颱風の静止画像の雲の渦　金沢区　岩澤　正春

三叉路に出会す風も白露かな　鵠沼桜が岡　一色千穂子

ノクターン音符を拾う秋の夜　材木座　有野　冬花

苦瓜や鰻に勝る薬膳ぞ　辻堂　柳　蒼柳

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ 茅木家
☎（22）1460

Genuine かまくらカスター
雪ノ下本店　逗子店
鎌倉駅前本館（かの鎌倉）
ルミネウィング（大船）店

漢方薬専門薬局・漢方処方調剤
大船の漢方薬
大船漢方堂
漢方薬専門薬局ですので、なるべく本人が御来店下さい。
〒247-0061 鎌倉市台1-3-10 TEL.0467(47)3311
営業時間：午前10時～午後7時　木・日・祝日休業

鎌倉朝日 発刊協力グループ 朝日新聞サービスアンカー
ASA鎌倉小町販売 大町一―一―四 ☎22―3236
ASA鎌倉中央 長谷一―一―九 ☎22―1004
ASA北鎌倉 山ノ内七四八 ☎45―4509
ASA鎌倉深沢 常盤二四七―二 ☎31―1444
ASA大船西部 玉縄一―一四―一 ☎46―6068
ASA大船南部 大船二―二三―一六松栄ビル3F ☎38―7322
ASA大船中央 大船二―二三―一六松栄ビル3F ☎38―7322
ASA腰越 藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二三 ☎0466―27―8716
ASA藤沢南部 藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二三 ☎0466―27―8716
ASA藤沢東部 藤沢市弥勒寺三―二二―一一 ☎0466―22―7409
ASA鵠沼東部 藤沢市鵠沼桜が岡三―六―一八 ☎0466―25―7110
ASA鵠沼西部 藤沢市鵠沼海岸二―一―一一 ☎0466―34―6924
ASA片瀬 藤沢市鵠沼海岸二―一―二 ☎0466―34―6924
ASA逗子 逗子市久木一―一―一一 ☎046―871―2368
ASA東逗子 逗子市沼間一―四―四 ☎046―871―6845
ASA葉山 三浦郡葉山町堀内一八〇八 ☎046―875―0515
ASA金沢八景 横浜市金沢区六浦一―二一―三 ☎045―782―2859
ASA大船北部 横浜市栄区笠間四―一一―九 ☎045―891―0986